

▶施設区別温室効果ガス排出量

施設区分		排出量(kg-CO ₂)				対2013年増減率		
		2013年	2016年	2017年	2018年	2016年	2017年	2018年
行政施設	本庁舎	554,309	501,985	481,866	452,781	△ 9.4%	△ 13.1%	△ 18.3%
	消防署・分団詰所	42,212	41,848	36,149	36,911	△ 0.9%	△ 14.4%	△ 12.6%
	シルバー人材センター	11,095	10,471	11,032	10,705	△ 5.6%	△ 0.6%	△ 3.5%
	計	607,616	554,304	529,047	500,397	△ 8.8%	△ 12.9%	△ 17.6%
町民サービス施設	文化(コミュニティセンター・集会所)	187,630	191,478	202,798	183,690	2.1%	8.1%	△ 2.1%
	社会教育(図書館・博物館)	137,121	121,954	138,720	121,167	△ 11.1%	1.2%	△ 11.6%
	スポーツ(体育館等)	65,570	68,265	64,559	65,020	4.1%	△ 1.5%	△ 0.8%
	子育て支援(保育所・放課後保育等)	77,318	75,710	62,040	75,882	△ 2.1%	△ 19.8%	△ 1.9%
	保健・福祉(福祉センター等)	349,156	342,266	330,958	323,003	△ 2.0%	△ 5.2%	△ 7.5%
計	816,795	799,673	799,075	768,762	△ 2.1%	△ 2.2%	△ 5.9%	
教育施設	小学校	201,100	193,824	216,420	202,451	△ 3.6%	7.6%	0.7%
	中学校	197,696	211,385	204,240	112,195	6.9%	3.3%	△ 43.2%
	かわせみ教室	4,892	4,914	4,270	4,026	0.4%	△ 12.7%	△ 17.7%
	給食センター	561,435	429,769	489,204	498,592	△ 23.5%	△ 12.9%	△ 11.2%
	計	965,123	839,892	914,134	817,264	△ 13.0%	△ 5.3%	△ 15.3%
施設処理	農業集落排水施設	176,059	201,739	146,519	146,504	14.6%	△ 16.8%	△ 16.8%
	汚泥再生処理センター	1,412,323	994,811	926,039	952,013	△ 29.6%	△ 34.4%	△ 32.6%
	上水道施設	1,218,947	1,245,223	1,245,774	414,189	2.2%	2.2%	△ 66.0%
	計	2,807,329	2,441,773	2,318,332	1,512,706	△ 13.0%	△ 17.4%	△ 46.1%
その他	休憩所・トイレ・自由通路	25,720	32,159	41,634	36,595	25.0%	61.9%	42.3%
	農産物加工施設	22,913	17,485	29,452	21,594	△ 23.7%	28.5%	△ 5.8%
	計	48,633	49,644	71,086	58,189	2.1%	46.2%	19.6%
総排出量		5,245,496	4,685,286	4,631,674	3,657,318	△ 10.7%	△ 11.7%	△ 30.3%

地球温暖化とは

地球の大気には二酸化炭素などの「温室効果ガス」と呼ばれる気体が含まれています。温室効果ガスには、太陽からの光によって温められた空気が宇宙空間に逃げ出すのを防ぐはたらきがあり、地球を暖かく保ってくれています。しかし、近年、この温室効果ガスが急激に増加して温室効果が強まったことで、地球規模で気温が上昇しています。これが地球温暖化です。

地球温暖化が進むと

- 異常気象が起こりやすい
雨が増えて大洪水が起きたり、深刻な水不足の危険性が高まったり、気候が極端化すると考えられ、農作物の生育にも影響がでます。
- 健康被害
夏は今以上に暑くなり、熱中症等の増加、マラリヤやコレラなどの感染症の流行、光化学スモッグによる、のどや目の痛みなどの健康被害がでます。
- 動植物への影響
気温上昇に適應できない動植物は絶滅する恐れがあり、生態系が変化します。
- 海面水位上昇
南極の氷が溶けたり、海全体が暖められ膨張し海面水位が上昇したりすると、水没する地域が発生します。



私たちにできること

- 地球温暖化対策の中で一番大きな課題が、温室効果ガスの排出量の削減です。温室効果ガスは、給湯や暖房、調理のためのガスの使用、電化製品の使用、自家用車の利用などによって常に排出されています。地球温暖化対策は、生活の中の身近なことから実行しましょう。
- 冷・暖房の温度を控えめにする
 - シャワーを流したままにしない
 - 電化製品の主電源をこまめに切る
 - 照明や冷・暖房などを節電するために家族が同じ部屋で過ごす
 - エコバッグを持ち歩き、余分なレジ袋をもらわない
 - 公共交通機関を利用し自家用車の使用を控える
 - アイドリングストップなどの「エコドライブ」を実践する



地球温暖化にはさまざまな要因がありますが、特に重要視されているのが、大気中に含まれる温室効果ガスで、二酸化炭素・メタン・フロン類がその代表です。文明の発展に伴い、温室効果ガスを大量に排出してきたことが、地球温暖化を進めたと考えられています。地球温暖化の進行によって、私たちの生活環境や生物の生態系にも深刻な影響が生じる恐れがあり、今後さらなる進行が予測されます。地球温暖化に歯止めをかけるためには、私たち一人一人の心掛けや行動が大切です。改めて地球温暖化対策について考えてみましょう。

町では、地球温暖化対策の推進を図るため「寄居町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)※」を策

定し、平成30年4月に施行しました。本計画は『地球温暖化対策推進法』および「第2次寄居町環境基本計画」に基づいて策定したもので、平成25(2013)年度を基準年度として、町の事務および事業に伴って排出される温室効果ガス排出量の削減目標を設け、低炭素社会実現に向けた取り組みを行い、その実績を公表することを義務付けています。今年度から、町施設の温室効果ガス排出量を本誌等でお知らせします。

※詳細は町公式ホームページで閲覧できます。

生活環境エコタウン課

☎ 581・2121内線223・224



地球温暖化を考えるきっかけに

エコライフDAY



平成18年度から継続して、夏季と冬季に、町内小・中学校の児童・生徒とその家庭で「エコライフDAY」に取り組んでいただいています。エコライフDAYは、簡単なチェックシートを使用して、一日のライフスタイルから削減できた二酸化炭素量が計算できるもので、生活の中で省エネ・省資源などを意識した生活を心掛けることで、環境に配慮したライフスタイルの定着を目指しています。

また、町では主に「クールビズ、ウォームビズを実行する」「不要な照明利用を抑制する」「無理のない建物階の移動には階段を利用する」「ごみの分別を徹底する」「エコドライブを習慣化する」などに取り組んでいますが、今年度はエコライフDAYも実施し、地球温暖化に対する関心を一層高めていきます。